＜研究題目＞　「鎮守の森」の自然的・文化的景観としての意味と役割

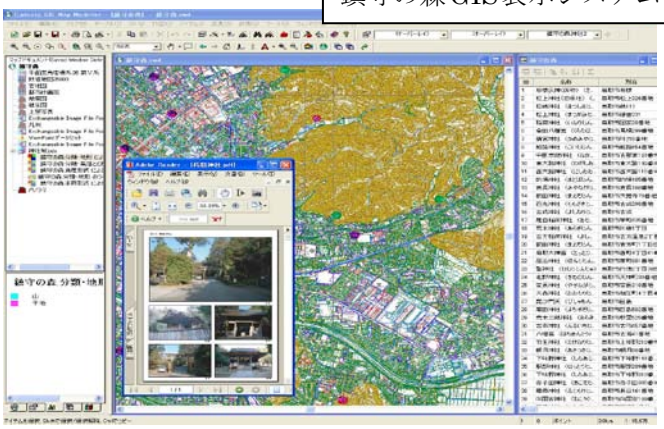
－鳥取市の景観まちづくりのための基礎的調査研究－

要旨　本研究は、鳥取の地形（森・丘）並びに集落・町並みと一体になり、かつ数多く保存されている鎮守の森を取り上げ、その存在態様と自然的・文化的景観としての役割を明らかにするものである。なお、鎮守の森の存在様態を明らかにするとともに、GIS システムを用いて視覚的に表現した景観まちづくりのツールの構築を目指すものである。

はじめに：鳥取の鎮守の森の実態調査から、その分布・植生・特徴・由緒を明らかにしその自然的・文化的景観の意味を探るとともに、景観まちづくりのツールとして、ＧＩＳシステムを活用したデータベース・表示システムの構築を目指す基礎研究である。

研究の方法：①GIS システムによる鎮守の森の表示システムの構築

鎮守の森GIS表示システム



②鳥取市内１５０余カ所の鎮守の森の全数調査と調査シートの作成

③植生図・地質図・歴史地図と鎮守の森の分布の対応関係分析

④鎮守の森の景観要素としての分析

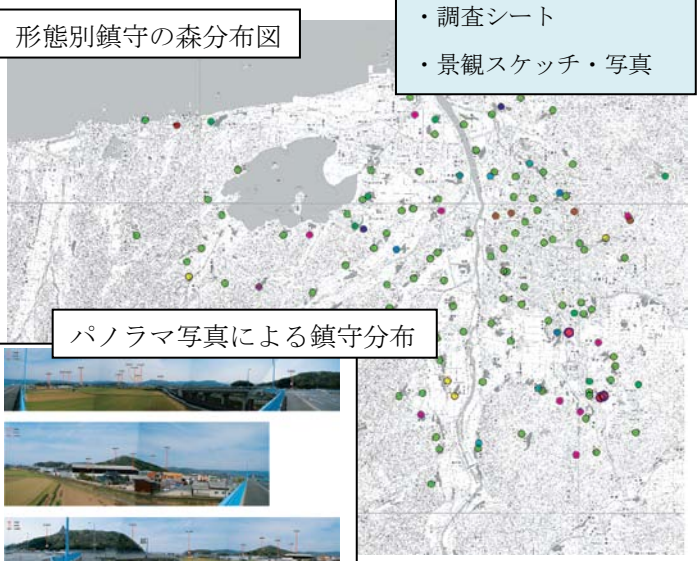
結果：

調査シート

景観スケッチ

・GIS 表示システム
・形態別鎮守の森分布図
・調査シート
・景観スケッチ・写真

形態別鎮守の森分布図



パノラマ写真による鎮守分布

考察：・多くの鎮守の森は、照葉樹・落葉広葉樹などの独特の植生を保存した自然景観である。・鎮守の森の景観は、暖温帯常緑広葉樹林帯の痕跡を強く残した植生となっているものの、背景の山林にとけ込んだ隠れた景観である。・この鎮守の森の分布は、「新鳥取湾」への泥層の蓄積による平野の形成の際の微高地・自然堤防周辺への生活域の形成とよく一致している。・鎮守の森は、自然景観として意味と同時に、農耕集落・生活域の展開と、聖樹・森・岬・先島などの聖域の形成によって展開してきた文化景観の複合した存在である。

鳥取環境大学環境マネジメント学科
教授　　東樋口　護

専門分野：　居住空間工学

メッセージ：
鎮守の森の自然的･文化的景観が生き続ける鳥取であってほしいと思います。